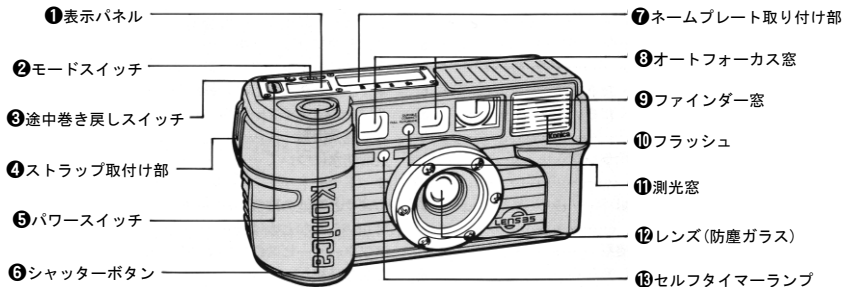
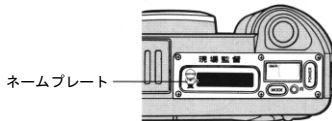
Konica NEW 現場監督

工事専用カメラ

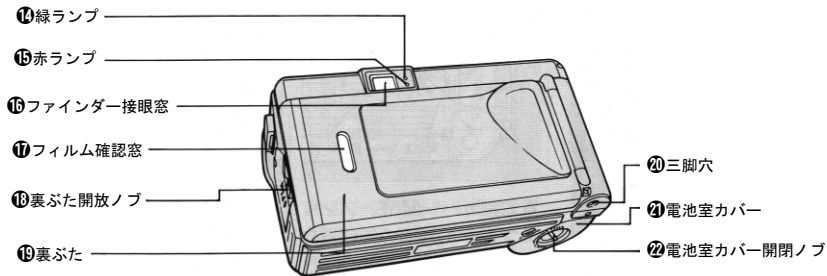
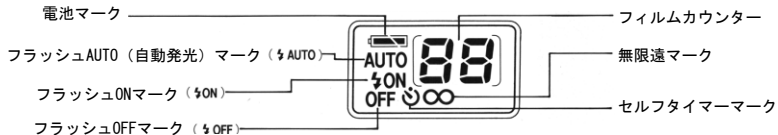
ご使用前に、必ずお読みください。

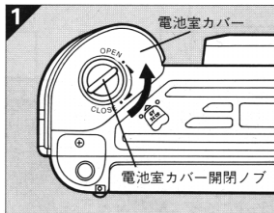
使用説明書

各部の名称

❶表示パネル
❷モードスイッチ
❸途中巻き戻しスイッチ
❹ストラップ取付け部
❺パワースイッチ
❻シャッターボタン
❼ネームプレート取り付け部
❽オートフォーカス窓
❾ファインダー窓
❿フラッシュ
⓫測光窓
⓬レンズ(防塵ガラス)
⓭セルフタイマーランプ

ネームプレートに
あなたのお名前を……

同封のネームシートにお名前を記入し、カメラ上面のネームプレート取付け部に置いて、裏紙をはがしたネームプレートを上から貼り付けてください。

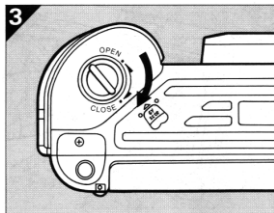
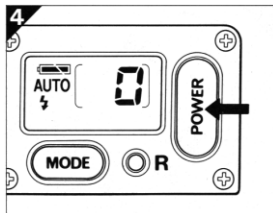
⓮緑ランプ
⓯赤ランプ
⓰ファインダー接眼窓
⓱フィルム確認窓
⓲裏ぶた開放ノブ
⓳裏ぶた
⓴三脚穴
㉑電池室カバー
㉒電池室カバー開閉ノブ

撮影表示パネル

（図はすべての液晶を点灯状態で示してあります。）

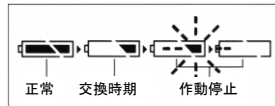
基本撮影

1. まず電池を入れてください

電池室カバー開閉ノブを指でつまみ、OPENの矢印方向に回して、開閉ノブとOPEN側の●印を合わせると、電池室カバーがはずせます。

カメラに水滴や砂などが付いていたら、乾いた布できれいに拭い落としてから、静かに電池室カバーをはずしてください。
カメラ内部に水滴や砂などが入ると、故障の原因になります。

電池をカメラ底面の表示に合わせて正しく入れます。

＊ 電池の接点側を奥にして入れてください。

電池室カバーをはめ、カバーを押えながら、CLOSEの矢印方向に開閉ノブを回して開閉ノブとCLOSE側の●印を合わせるとロックされます。

パワースイッチを押すと、撮影表示パネルに
(電池マーク)
AUTO (フラッシュAUTO)
0 (フィルムカウンター)
が現われ電源ONになります。

* パワースイッチをもう一度押すと電源OFFになります。電源OFFのときには電池マークだけ点灯し、他のマークは消灯します。

電池交換の時期

電池が消耗して、電池マークが2/3白くなったらお早めに新しい電池と交換してください。

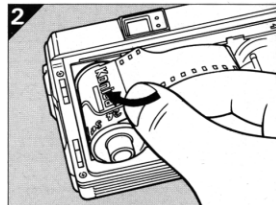
* 使用電池はリチウム電池2CR5:6V、1コです。
* 撮影途中で電池マークが2/3白くなったら、最後まで撮影したあと電池を交換してください。
* 万一撮影中に電池マークが点滅したあと白くなると、シャッターがロックされます。このときは途中巻き戻しをしてください。

2. フィルムを入れてください

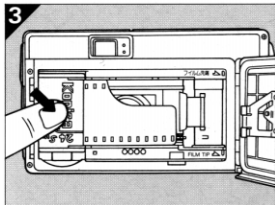
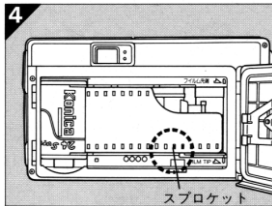
このカメラは、DXコードの付いたパトローネ入り35㎜(135)フィルムを使用します。フィルムをカメラに入れると同時に、使用フィルムの感度(ISO25～3200)が自動的にセットされます。

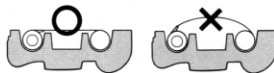
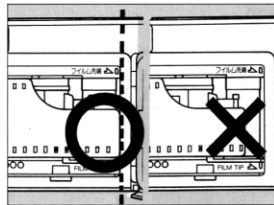
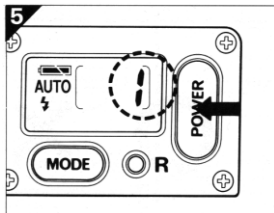
* DXコードのないフィルムは、すべてISO25に設定されます。
* リバーサルカラーフィルム(スライド用)は、下表のDX導入感度(ISO)と同一感度のフィルムをご使用ください。
* コニカカラーフィルムのご使用をおすすめします。

裏ぶた開放ノブを押しさげ裏ぶたを開けます。

* カメラに水滴や砂などが付いていたら、乾いた布できれいに拭い落としてから、裏ぶたを開けてください。内部に水滴や砂が入ると故障の原因になります。

フィルムを入れます。

使用フィルム感度のDX導入感度

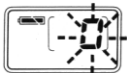
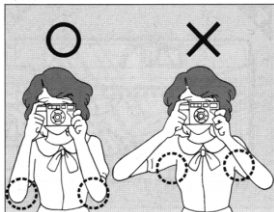
DX導入感度(ISO)	25	50	100	200	400	800	1600	3200
使用フィルム感度(ISO)	25	50	100	200	400	800	1600	3200
	32	64	125	250	500	1000	2000	—
	40	80	160	320	640	1250	2500	—

パトローネ(フィルムの容器)をカチッと音がするまで押して入れ、フィルムが平らに出るようにします。

フィルムを少し引き出し、先端をカメラ内部の先端マーク(◣▮)に合わせて、裏ぶたを閉じます。

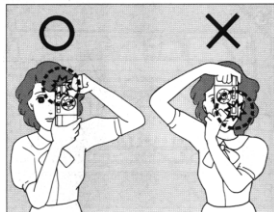
* フィルムのパーフォレーション(送り穴)とスプロケット(送り歯車)のかみ合わせを確認してください。

* フィルム確認窓を見れば、フィルムが入っているかどうかわかります。

パワースイッチを押すと、フィルムは1枚目の撮影位置まで自動的に送られます。

＊ IS025のフィルム使用の場合は、シャッターボタンを押してください。

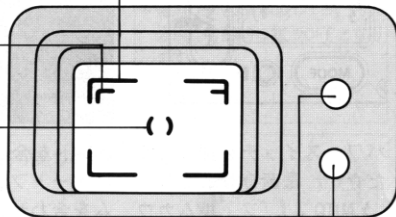
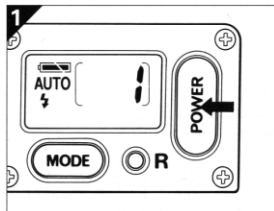
フィルムが送られていないときは

フィルムカウンターが 0 のまま点滅します。入れ直してください。

3. 正しい構え方

両手でしっかり持ってカメラぶれを防ぎましょう。カメラ背部を頬に当て、両ヒジを軽く締めると安定します。ヒジを開くとカメラぶれをしやすくなります。

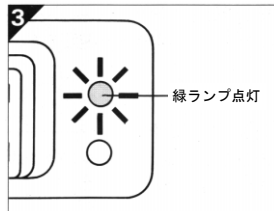
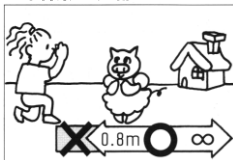
＊ 指の腹でシャッターボタンを静かに押してください。

タテ位置のフラッシュ撮影では、フラッシュが上になるように構えてください。フラッシュを下にして発光すると、写真が不自然になります。

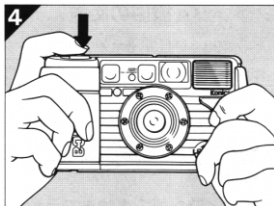
＊ 指や毛髪、ストラップなどが、レンズやオートフォーカス窓、測光窓、フラッシュをじゃましないように気をつけましょう。

4. ファインダーと表示ランプ

5. いよいよ撮影です(一般撮影)

パワースイッチを押してください。電源ONとなり、ϟAUTO、!(フィルムカウンター)が点灯します。

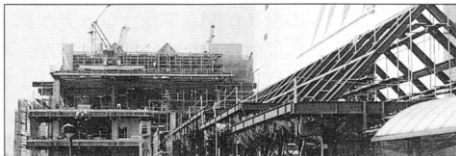
＊ 電源OFF時には電池マークだけが点灯しています。
＊ 防塵ガラスの汚れにご注意ください。もし汚したらきれいに拭き取ってください。

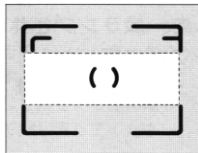
ピントを合わせたい被写体にオートフォーカスフレームを合わせます。

日中撮影の距離

シャッターボタンを半押しすると緑ランプが点灯し、自動的にピントが合います。

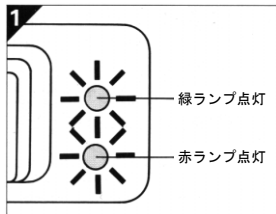
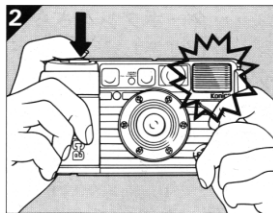
＊ 緑ランプが点滅したときは、被写体が近すぎてピントが合わない警告で、シャッターがロックされます。
＊ 緑ランプと同時にセルフタイマーランプが点灯するので、写される人にも撮影のタイミングがわかります。

シャッターボタンをさらに深く静かに押し込み、シャッターをきってください。

* 撮影が終わるとフィルムが1コマ自動的に送られ、フィルムカウンターの数字が1つ進みます。
* 続けて撮影しないときは、パワースイッチを押して電源OFFにしてください。
* 電源ONのまま放置しても、約30分後に自動的に電源OFFとなります。

別売のパノラマアダプターを取付けてパノラマ撮影が楽しめます

別売のコニカパノラマアダプターを取付ければ、横(縦)長のパノラマ画面となり、広がりのある風景や長く並んだ集合人物などを、ダイナミックに表現できます。

* 取付け方、はずし方、現像・プリントご依頼時の注意などは、パノラマアダプターの使用説明書をごらんください。

点線内が写る範囲の目安です。

* 近接撮影をすると写る範囲が下方向にズレますから、構図に余裕をもたせて写してください。

6. 自動フラッシュ撮影

シャッターボタンを半押しして、緑ランプと共に赤ランプが点灯したら、フラッシュが自動発光します。

シャッターボタンをいっぱいに押してフラッシュ撮影してください。

* フラッシュ撮影後、赤ランプが数秒間点灯した後消えますが、この間は充電中ですから、シャッターはきれません。

フラッシュ撮影の距離

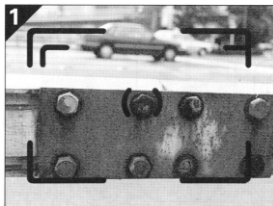
ISO 100	0.8m～5.0m
ISO 400	0.8m～10.0m

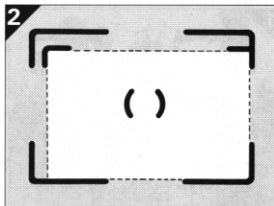
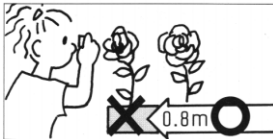
人物をフラッシュ撮影するときのご注意

緑ランプ点灯

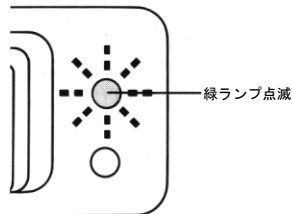
室内など暗い所で人物をフラッシュ撮影すると、目が赤く写ることがあります(赤目現象)。これは目の瞳孔が開きフラッシュ光が網膜に反射するために起きますが、写される人により個人差があります。次の方法で赤目を減少できます。

1) 照明のある明るい室内(新聞が読める程度)で撮影します。
2) 人物に近づいて撮影します。

7. 近距離撮影

このカメラは、0.8mまで近接して撮影できます。
被写体に近づいてオートフォーカスフレームに入れてください。

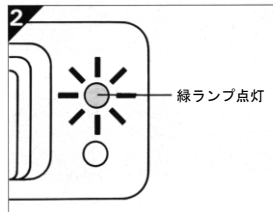
近距離撮影の範囲

ファインダーの近距離補正マーク内で構図を決め、シャッターをきります。

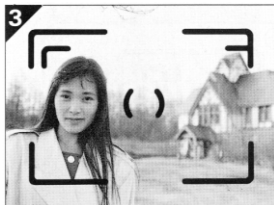
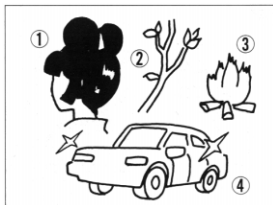
＊ クローズアップ補正マークは、撮影距離0.8m～1mのときお使いください。
＊ 被写体を画面中央に置きたくない場合はフォーカスロック撮影をしてください。

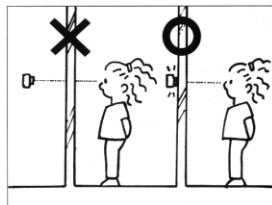
シャッターボタン半押しで緑ランプが点滅したときは……

0.8mより近すぎてピントが合わない警告で、シャッターがロックされます。
半押しした指をいったん離し、少し離れて押し直してください。

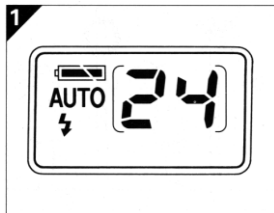
8. フォーカスロック撮影

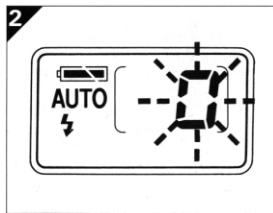
構図上、人物を画面の端に配置したい撮影や、画面の両側に人物がいる撮影など、オートフォーカスフレームから被写体がはずれていると、ピントがバックの風景に合ってしまい、人物がぼけてしまいます。こういうとき、フォーカスロック撮影をすれば、シャープな写真が写せます。

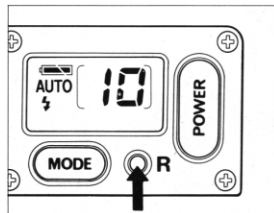
ピントを合わせたい被写体にオートフォーカスフレームを合わせます。

シャッターボタンを半押しすると、緑ランプが点灯してピント位置が固定されます。

* 緑ランプと同時にセルフタイマーランプが点灯します。
* 半押しした指をシャッターボタンから離すと、フォーカスロックは解除され、やり直しができます。
* フォーカスロックと同時に自動露出も固定されます。

半押しのまま希望の構図に決め直し、シャッターボタンをいっぱいに押して撮影します。

オートフォーカスが正しく働きにくい被写体

①反射しにくい黒いもの
②小さいもの細いもの
③発光体
④光沢のあるもの
は測距しにくいので、同じ明るさで等距離の測距しやすいものに向けてフォーカスロックをしてください。

* ガラス越しの撮影は、オートフォーカスが働かない場合がありますから、同じ距離のものに向けてフォーカスロックしてください。
また、ガラスに密着させても正しい測距ができます。

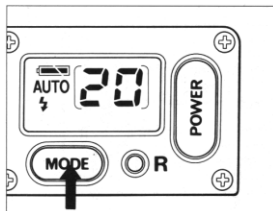
9. フィルムの取り出し方

フィルムが最後になると、自動的に巻き戻しが始まります。

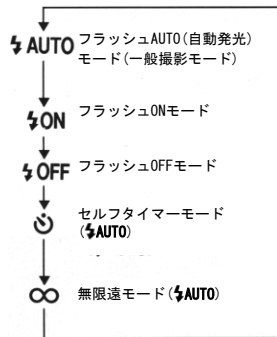
＊ フィルムカウンターは、巻き戻しに連動して逆算します。
＊ 写し終わったフィルムは、お早めにカメラ店にお持ちになり、「コニカカラー百年プリント」とご指定ください。美しいカラープリントに仕上ります。

巻き戻し完了で自動的に停止します。フィルム枚数計の0の点滅を確認した上で裏ぶたを開け、フィルムを取り出してください。

＊ 裏ぶたを開けるとフィルム枚数計の0が一瞬点灯し、電源OFFになります。
＊ フィルムの規定枚数より多く撮影した場合には、最後の画面が少し重なることがあります。

途中巻き戻しの方法

途中巻き戻し（R）スィッチをストラップ調整具の突起部で押すと、撮影途中のフィルム巻き戻しができます。

＊ 巻き戻し後の手順は、自動巻き戻しの場合と同じです。

1. モードスイッチの切替え

モードスイッチを押すと、撮影表示パネル上に5つのモードが、順次表示され循環します。

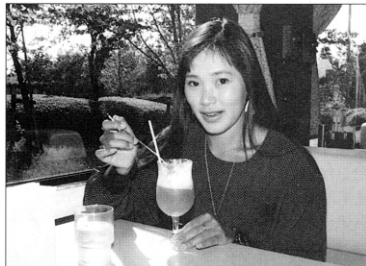
* 通常は⚡AUTOになっています。
* ⚡ON、⚡OFF、∞の各モードは固定され、一度設定したモードで撮影を続けられます。撮影が終わったら一般撮影モードに戻しておきましょう。

* セルフタイマー撮影では、1コマ撮影後、一般撮影モードに自動復帰します。

2. 日中フラッシュ撮影(フラッシュONモード)

フラッシュが常時発光するモードです。逆光や室内窓際の人物、くもりや日陰の人物を明るくきれいに写します。

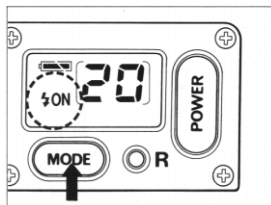
モードスイッチを押して、撮影表示パネルにϟONを出します。

被写体に向けてシャッターをきれば、明るいところでもフラッシュが発光します。

* シャッターボタン半押しで、緑ランプと同時に赤ランプが点灯します。

フラッシュ撮影

フラッシュなし

3. スローシャッターシンクロ(フラッシュONモード)

⚡ONモードで夕・夜景をバックに人物を写すと、暗い背景も共に明るく雰囲気のある写真が写せます。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに ⚡ONを出します。

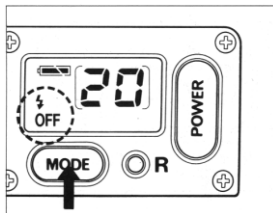
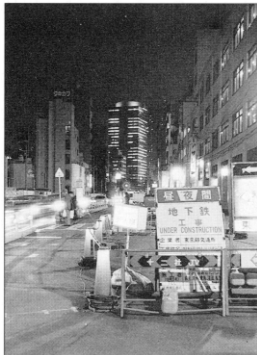
暗い場所で被写体に向けてシャッターをきれば、1/15秒までのスローシャッターによるフラッシュ撮影ができます。

* カメラぶれをしやすいので、三脚をご使用ください。

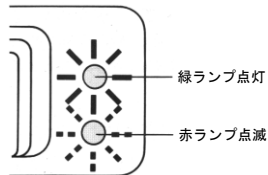
スローシャッターシンクロ

⚡AUTOのフラッシュ撮影

4. フラッシュなしの撮影（フラッシュOFFモード）

フラッシュが発光しないモードです。フラッシュ撮影が禁止されている美術館での撮影や、夕景、都会の夜景の撮影などにご利用ください。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに⚡OFFを出します。

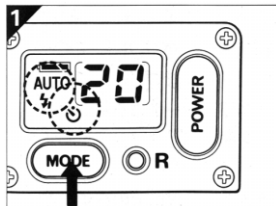
被写体に向けてシャッターをきれば、1/4秒までフラッシュなしの自動露出撮影ができます。

＊ シャッターボタン半押しで赤ランプが点滅したときは、カメラぶれの警告です。

暗くて自動露出が働かないときは、最長2秒の超スローシャッターに切替わります。（2秒バルブ）

＊ このときはシャッターボタン半押しで、赤ランプがゆっくり点滅します。

＊ 2秒バルブは、2秒以内であれば、シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになります。

＊ カメラぶれをしますので、三脚をご使用ください。

5. セルフタイマー撮影(セルフタイマーモード)

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに⏲を出します。

＊ セルフタイマーモードにセットすると、⚡AUTO(フラッシュ自動発光)になります。

被写体に向けてシャッターボタンを押すとセルフタイマーがスタートし、約10秒後にシャッターがきれます。

＊ スタートと同時に、セルフタイマーランプが点灯し、シャッターがきれる3秒前に点滅に切替わります。

＊ 三脚をご使用ください。

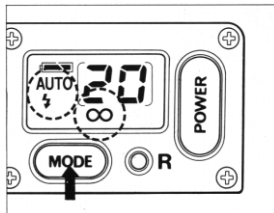
＊ スタートはカメラのうしろから操作してください。前からでは近すぎてシャッターがロックされます。

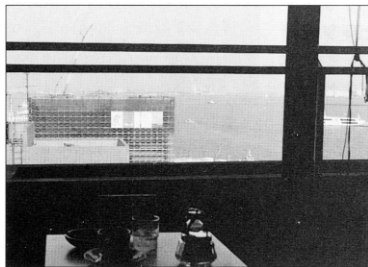
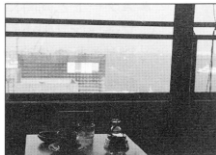
＊ フォーカスロックもできます。

＊ 撮影が終わると、一般撮影モードに復帰します。続けてセルフタイマー撮影をする場合は、セットし直してください。

＊ 作動中にキャンセルしたいときは、パワースイッチを押してください。

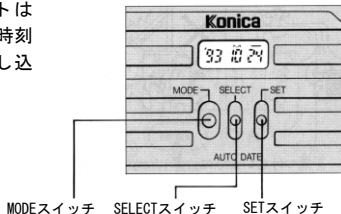
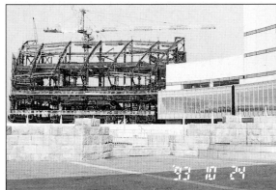
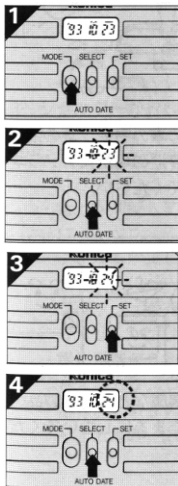
6. 遠景撮影（無限遠モード）

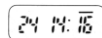
日中の風景撮影や窓ガラス越しの明るい遠景撮影にこのモードをご使用ください。ピントが無限遠に固定され、遠景がシャープに写せます。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに∞を出し撮影します。

* 無限遠モードにセットすると、ϟAUTO（フラッシュ自動発光）になります。
* 夜景や日没前後の夕景など、暗いときの遠景撮影では、フラッシュなしの撮影をしてください。

ガラス越しの風景を無限遠撮影

一般撮影

オートデート（オートデート付のみ）

このカメラのオートデートは2019年12月31日までの日付・時刻を記憶し自動的に画面に写し込むことができます。

写し込みの位置とバック
写し込みの位置が明るい場合、白い場合は、デート文字がはっきり出ないことがありますから、ご注意ください。

表示モードの切替え
MODEスイッチを押して、年月日、日時分、写し込みなしを選びます。

日付・時刻の修正

1) MODEスイッチで日付(時分)を表示します。
2) SELECTスィッチを押して、修正する日付(時分)を点滅させます。
3) SETスイッチを押して、日付(時分)を点滅のまま修正します。
4) SELECTスイッチを押すと点滅が点灯となり、━のマークが現われて写し込みの状態になります。

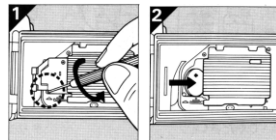
24 14: 16

* 分を修正した後SELECTスイッチを押すと、:が点滅します。もう一度SELECTスイッチを押して写し込みの状態にしてください。
* 秒まで合わせるには、:の点滅時に時報に合わせてSETスイッチを押します。さらにSELECTスイッチを押して写し込みの状態にしてください。

オートデート用電池の交換

オートデート用電池として、リチウム電池(CR2025:3V)を使用しています。およその交換時期は約4年です。

デート文字が見えにくくなったら、新しい電池と交換してください。

* 電池交換後は、日付・時刻を修正してください。

電池交換の方法

おもな仕様

項目	内容
形　式	：レンズシャッター式ＡＦ全自動35㎜カメラ
画面サイズ	：24×36㎜
レンズ	：コニカレンズ、35㎜ F3.5（3群 3枚構成）、レンズ前面に防塵ガラス
パワースイッチ	：電源ONでオートローディング・シャッターロック解除・液晶点灯、約30分後自動的に電源OFF、電源残量マーク表示、電源OFFでシャッターロック・電池マーク以外の液晶消灯・セルフタイマーキャンセル
シャッター	：プログラム電子シャッター、電磁レリーズ、1/4秒～1/280秒 2秒バルブ付
焦点調節	：赤外線ノンスキャンアクティブ式自動焦点、撮影範囲・0.8ｍ～∞、0.8ｍ以内の近距離ロック（緑ランプ点滅）、フォーカスロック可能、無限遠撮影可能
露出調節	：CdS 受光素子使用のプログラム自動露出調節中央重点測光
露出連動範囲	：ISO 100・EV5.5～EV16.5
フィルム感度	：自動設定（ISO 25～ISO 3200）
ファインダー	：アルバダ式ブライトフレームファインダー、オートフォーカスフレーム、近距離補正マーク、ファインダーわきに緑ランプ（AE・AFロック時点灯、近距離ロック時点滅）、赤ランプ（フラッシュ発光時、未充電時点灯、低輝度警告時点滅）
フラッシュ	：手ぶれ限界の低輝度時に自動発光するフラッシュマチック機構、　連動範囲・（ISO 100）0.8ｍ～5.0ｍ、発光間隔・約３秒

項目	内容
モード切替え	：フラッシュ自動発光、フラッシュON、フラッシュOFF、セルフタイマー撮影、無限遠撮影の５モードを循環、液晶パネルに表示
セルフタイマー	：電子式、作動時間約10秒、セルフタイマーランプが約７秒間点灯した後約３秒間点滅、途中解除可能
フィルム給送	：電動式、パワースイッチでスタートするオートローディング、自動巻き上げ、フィルム終了でオートリターン、巻き戻し後自動停止、途中巻き戻し可能
フィルムカウンター	：順算式、液晶パネルに表示
オートデート（デート付のみ）	：液晶表示式デジタルウォッチ内蔵、2019年までの年月日、日時分、写し込みなし、月日年日月年を表示、秒単位まで修正可能
電池寿命	：50％フラッシュ発光のとき約40本（24枚撮りフィルム）
電　源	：リチウム電池（2CR5：6Ｖ）1コ、オートデート用としてリチウム電池（CR2025：3V）1コ
生活防水	：種類・JIS保護等級４（防沫形）、意味・いかなる方向からの水の飛沫を受けても有害な影響のないもの、試験・300㎜～500㎜の高さで鉛直から180度の範囲にじょろで10ℓ/minの水量を機材の外部表面積１㎡当たり１分間で５分以上散水
大きさ・重さ	：デートなし　145×79×56㎜、345ｇ（電池別） デート付　145×79×59㎜、350ｇ（電池別）

＊　上記性能については当社試験条件によります。

＊　製品の仕様外観については予告なく変更することがあります。